

令和 4(2022)年度 事業報告書

(令和 4(2022)年 4 月 1 日から令和 5(2023)年 3 月 31 日まで)

1 概要

本財団は 1945 年 4 月 4 日に財団法人海洋化学研究所（文部省所管）として設立され、2012 年 4 月 1 日に一般財団法人海洋化学研究所（京都府所管）へ移行し、2016 年 9 月 1 日からは、公益認定を得て一般財団法人から京都府所管の公益財団法人となり、2017 年 12 月 21 日からは、変更認定を得て内閣府所管の公益財団法人となった。

本財団は、事業目的である「海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発展を図ることを目的」として（公 1）～（公 3）の事業を行う。

賛助会員の数は、個人会員が 95 名、学生会員が 9 名、法人・団体会員が 5 法人である（令和 5 年 3 月 31 日現在）。

法人の主たる事務所は、京都府宇治市の京都大学化学研究所内に置く。その他の事務所はない。

法人の役員は、評議員 4 名、理事 5 名、監事 2 名である。

法人の職員は、常勤職員が 1 名である。

2 （公 1）学術助成金の事業

海洋化学に関する研究、助成および奨励をなしその発展を図るため、その分野における研究者に学術助成金を支給する事業を行った。

助成金の種類は、以下の 2 種類である。

ア 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、研究助成金。以下、「研究助成金」と言います。

金額 1 件 150 万円以下 年数件

イ 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、海外の大

学、研究機関、学会、シンポジウム等への海外渡航費に関する助成金。以下、「海外渡航費に関する助成金」と言います。

金額 1件 30万円以下 年数件

これに基づき、助成金への応募を、2022年10月29日から2023年2月3日まで、財団のホームページ、及び、本財団発行の研究所報「海洋化学研究」を用いて、呼びかけた。

本助成金の受領者などを決める選考委員会のメンバーは、以下の6名である。

加藤義久(東海大学名誉教授)

左右田健次(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

中西正己(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

廣瀬勝己(元気象庁気象研究所地球化学研究部部长)

蒲生俊敬(東京大学名誉教授)

宗林由樹(京都大学教授 兼 本財団代表理事)

2023年2月18日、選考委員会が開催され令和5年度助成金の受領者の選考答申が行われ、この答申結果は、2023年3月11日に理事会にて承認された。助成金の受領者は、以下のとおりである。

ア 研究助成金 (6名、合計 6,015千円)

代表者氏名	代表者所属・職名	研究題目	助成金額 (千円)
近藤能子	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科・准教授	北西太平洋におけるビタミン B12 の分布と植物プランクトン増殖への影響	980
久保篤史	静岡大学理学部地球科学科・講師	沿岸浅海域における炭素貯留量とその分解特性評価	1,050
楠部真崇	和歌山工業高等専門学校・生物応用化学科・准教授	持続的なアマモ場創出技術と診断法の開発	900
鄭 臨潔	京都大学化学研究所・助教	インド洋における全可溶性微量金属 9 元素の断面解析	1,050
眞塩麻彩 実	金沢大学理工研究域物質化学系・助教	紫外線照射分解による環境水中の溶存態パラジウム濃度への影響解明	1,050

高野祥太郎	京都大学化学研究所・助教	大気エアロゾル中微量金属の起源推定と海洋への影響評価	985
			小計 6,015

イ 海外渡航費に関する助成金（2名、合計500千円）

代表者氏名	代表者所属・職名	渡航目的・渡航先	助成金額（千円）
植木隆太	京都大学理学研究科化学専攻・博士後期課程3年	Geochemistryの国際会議であるGoldschmidt2023にて、“Distributions of Zr, Hf, Nb and Ta in the North Pacific Ocean and the Indian Ocean.”についての研究発表と学術交流をするため 渡航先：リヨン，フランス	250
深澤徹	新潟大学大学院自然科学研究科・博士後期課程3年	Goldschmidt2023にて”Determination of ultra-trace Te species in open ocean waters based on Mg(OH) ₂ coprecipitation, anion exchange resin column separation and inductively coupled plasma sector-field mass spectrometry assisted by a ¹²⁵ Te-enriched isotope spike”について発表と情報収集を行うため 渡航先：リヨン，フランス	250
			小計 500

3 （公2）学術講演会の事業

海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなしその発展を図るために、その分野における第一人者を招き、京都府内において、広く一般人にも開かれた講演会を開催する事業である。

以下の講演会を実施した。

第42回石橋雅義先生記念講演会

令和4年4月24日（土）午後1時30分～午後5時、京都大学楽友会館にて開催。出席者42名。

まず、以下の2名に、第37回海洋化学学術賞を与えた（本年は奨励賞該当者なし）

Tung-Yuan Ho 氏

Research Fellow, Academia Sinica, Taiwan

本多牧生氏

海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センター物質循環・人間圏研究グループ・上席研究員

続いて、受賞者2名が講演を行った。演題、講演者は以下のとおり。

- 第37回海洋化学学術賞受賞記念講演
- “Multidisciplinary study of trace metal biogeochemistry in the ocean”
Research Fellow, Academia Sinica, Taiwan, Tung-Yuan Ho
- 「西部北太平洋時系列観測による生物ポンプに関する研究」 海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センター・上席研究員 本多牧生

76周年秋季講演会

令和4年10月29日（土）午後1時30分～午後5時、京都大学百周年時計台記念館にて開催。出席者33名。

- 「黄砂によって長距離輸送されるバイオエアロゾルの生態学的特徴」
近畿大学理工学部教授 牧輝弥
- 「瀬戸内海における海洋化学研究-光化学反応を中心に」 広島大学大学院統合生命科学研究科特任教授 佐久川弘

京都化学者クラブ講演会

楽友会館にて開催。化学という分野に着目した、市民向けの学術講演会。「化学者クラブ」という名称であっても、別に「化学者クラブ」との団体があるわけではない。

年	月日	題目	講演者	所属
2022	4月2日	ガラスの考古科学：元素分析および同位体比分析から見た古代ガラスの産地と交易	田村 朋美	奈良文化財研究所都城発掘調査部
2022	5月7日	超苦鉄質岩の化学風化と元素濃集プロセス	伊藤 茜	関西学院大学生命環境学部環境・応用化学科助教
2022	6月4日	葡萄の美酒：科学と文化	左右田 健次	京都大学名誉教授
2022	7月2日	42年間の教育・研究生活	小川 信明	秋田大学客員教授・名誉教授
2022	8月6日	強塩基性・高アルカリ度閉塞塩湖の化	杉山 雅人	京都大学名誉

		学		教授
2022	9月3日	化学反応で考える海底金属資源の形成過程	石橋 純一郎	神戸大学海洋底探査センター教授
2022	10月1日	富栄養化した干潟における微生物的窒素除去・貯留過程	千賀 有希子	東邦大学理学部化学科准教授
2022	12月3日	同位体比分析による月形成過程の解明	岡林 識起	関西学院大学生命環境学部環境応用化学科講師
2023	2月4日	ジオパークの教育的活用 ―地学教育の普及を目指して―	亀田 直記	京都教育大学教育学部講師
2023	3月4日	電気化学センサの製品開発と応用例	桑本 恵子	堀場アドバンスドテクノ開発本部ラボ・フィールドソリューションズ開発部

4 (公3) 学術情報提供の事業

海洋化学に関する学術情報の流通を促すことで、海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発達を図るべく、学術研究誌出版事業としての「海洋化学研究」の発行、及び、本財団のホームページ運営を行った。

併せて、過去に刊行した「海洋化学研究」をデジタルアーカイブ化した。

海洋化学研究（第35巻1号）を2022年4月24日に発行。内容は、以下のとおりである。

ページ	種類	タイトル	著者
1	巻頭言	財団法人海洋化学研究所 75年の歩み	宗林 由樹
4	第36回海洋化学学術賞受賞記念論文	クリーン技術に基づく海洋における微量金属元素研究	小畑元
14	第5回海洋化学奨励賞受賞記念論文	鉄安定同位体比を用いた、エアロゾル中の起源の異なる鉄の海洋表層への寄与推定に関する研究	栗栖 美菜子
23	第5回海洋化学奨励賞	海水中の銅の有機配位子の分布およびその循環に関する研究	Wong, Kuo

	受賞記念論文		Hong (黄国宏)
30	月例卓話	マイクロ波化学を楽しもう！ 第五章—電気的加熱現象, マイクロ波誘電加熱と物質の電子状態—	岸原 充佳・松村 竹子
34	月例卓話	in situ 抽出剤生成法の誕生から将来展望まで	藤永薫
39	月例卓話	大水深淡水湖のユニークな微生物生態系	岡崎 友輔
43	月例卓話	NMR で迫るヒト生細胞中の核酸分子の挙動と木質バイオマスの超微細構造	片平 正人
50	月例卓話	江戸時代日本人の食糧事情	重松 利彦
57	学術助成報告	令和 3 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	高 巢 裕之
59	学術助成報告	令和 3 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	岩 瀬 海里
62	学術助成報告	令和 3 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	遠藤寿
64	学術助成報告	令和 3 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	八 田 真理子
71	学術助成報告	令和 3 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	眞 塩 麻彩実
74	学術助成報告	令和 3 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	高 野 祥太朗
76	学術助成報告	令和 3 年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (海外渡航助成) 成果報告書	八 田 真理子

海洋化学研究 (35 巻 2 号) を 2022 年 10 月 29 日に発行。内容は、以下のとおりである。

83	巻頭言	海洋環境・海洋汚染への関心度	山田悦
85	第 37 回海洋化学学術賞受賞記念論文	Multidisciplinary study of trace metal biogeochemistry in the ocean	Tung-Yuan Ho
99	第 37 回海洋化学学術賞受賞記念論文	西部北太平洋時系列観測研究による生物ポンプに関する研究	本 多 牧生
110	第 5 回海洋化学奨励賞受賞記念論文	海底堆積物・鉱物への元素濃集メカニズムの解明	柏 原 輝彦
122	月例卓話	マイクロ波化学を楽しもう！ 第六章—磁性体の振る	岸 原 充

		舞いとマイクロ波加熱ー	佳・松村 竹子
126	月例卓話	明らかとなってきた D- アミノ酸の機能	吉村徹
132	月例卓話	海水中の鉄など微量栄養物質が植物プランクトン増殖へ与える影響	近藤能子
137	月例卓話	旧巨椋池氾濫原における水草の自然再生について	松本仁
144	月例卓話	ファクト情報を選別するために	三田村 緒佐武
151	月例卓話	元素分析および同位体比分析から見る古代ガラスの産地	田村朋美
156	月例卓話	おおよそ 40 年間で成した研究の一部ご紹介	小川信明

本財団のホームページ運営事業においては、「海洋化学研究」の掲載論文をホームページからも見られるようにし（海洋化学研究第 1 巻から第 35 巻までのすべての論文をオープンアクセス化）、また、財団からのお知らせ（助成金・講演会・出版等）も掲載した。URL は、<http://www.oceanochemistry.org/>

以上

令和 4(2022)年度
事業報告書の附属明細書

(令和 4(2022)年 4 月 1 日から令和 5(2023)年 3 月 3 1 日まで)

本年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありません。

以上